

早稲田大学簡帛研究会若手研究者発表会 報告要旨

早稲田大学簡帛研究会では、以下の日程で若手研究者の発表会を行いました。
報告内容は次のとおりです。

■ 第3回 早稲田大学簡帛研究会 若手研究者発表会

日時：2013年12月12日（木） 16:30～20:00

会場：戸山キャンパス 39号館6階 第7会議室

報告者①：川村 潮

題 目：『儀礼』に見える「筮」について

概 要：古代中国を「法と習俗」という視座から眺めるとき、ある集団の秩序を具現化し、共有させる「儀礼」について検討することがきわめて重要になってくる。それは法と習俗がいずれも人々の行動や思考を規範化させるものであり、その従うべき価値観を成立せしめるのが「儀礼」といった文化的要素に他ならないからである。そこで本発表では『儀礼』について検討を加え、そこに見える「筮」の語がいかなる内容を持っていたか、卜筮祭禱簡など出土文字資料を用いて考察した。

報告者②：小倉 聖

題 目：「出土資料に見える刑徳七舎とその理論の相違について」

概 要：天文訓と出土資料（随州孔家坡漢墓簡牘「刑徳」篇、日照海曲簡『漢武帝後元二年視日』、居延新簡）に見える「刑徳七舎」の比較・検討を行った。その結果、天文訓成立以前成書の孔家坡漢簡の運行は運行法も含めて他のものと差異のあることが分かった。そして刑徳七舎の運行はもう一つの天文訓の刑徳運行である二十歳刑徳と同じように、天文訓により理論の統一がなされ、以降では天文訓のものが残った可能性を指摘した。